

成果名 肥効調節型肥料を用いた春植えサトウキビ全量基肥による省力栽培

背景・ねらい

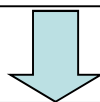
種子島地域のサトウキビの生産構造はここ10年で激変している。

①高齡化

60歳以上割合：53%(H17) → 62%(H26)

②大規模化

1戸あたり面積：81a(H17) → 125a(H26)



省力技術の開発が急務である。その一つとして、「基肥」と「追肥」を行う施肥作業の省力化を図るため、「全量基肥栽培」の開発に取り組んだ。

研究方法

- 1 肥効調節型肥料LPコート溶出パターンの埋め込み試験
- 2 埋込試験から生育に合わせた肥効を示す配合肥料の試作
- 3 試作肥料の効果確認（実証試験）

成果の内容・特徴

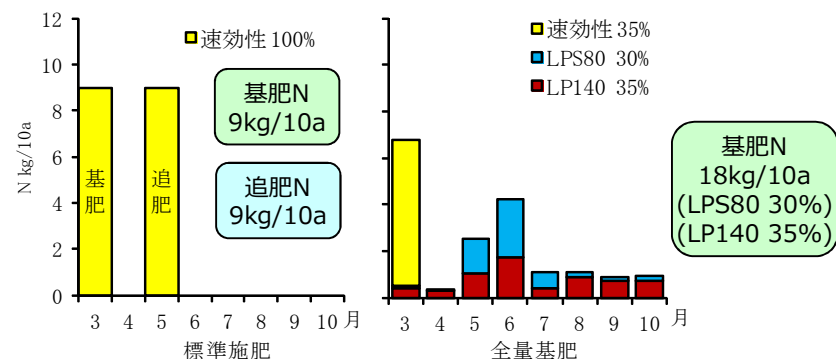


表 春植え栽培における茎重, 糖度, 糖量(農林8号)

年度	試験区	原料茎重		甘蔗糖度		可製糖量	
		(kg/a)	対標比 (%)	(%)	対標比 (%)	(kg/a)	対標比 (%)
平成24年	標準施肥	595	(100)	13.9	(100)	75	(100)
	全量基肥	635	(107)	13.9	(100)	79	(107)
平成25年	標準施肥	914	(100)	12.7	(100)	102	(100)
	全量基肥	944	(103)	13.2	(104)	110	(108)

「全量基肥」は省力的で、収量・品質も標準施肥と同等以上

今後の展開

「全量基肥」は「熊毛きび一発852」として平成28年から利用が開始されます。